

記事内容

- ☆平和行動in広島
- ☆平和行動in長崎/Wor-Q共済
- ☆最低賃金答申/オルガナイザー研修会(実践)
- ☆9月の行動予定表/労働委員会事務局よりお知らせ
- ☆あけぼのビル

原子爆弾の非人道性を語り継ぎ 核兵器廃絶を国際社会に訴えよう!

2022平和行動 in 広島・in 長崎

平和行動in広島

8月4日(木)～6日(土)、「平和行動in広島」が開催され、連合埼玉からは8名が参加しました。初日は呉市にある「てつのかじら館」「大和ミュージアム」を視察。2日目は、午前中に折り鶴を献納した後、爆心地から最も近く大きな被害を受けた大川小学校内の平和資料館や広島平和記念公園、平和資料館を視察しました。午後からは原爆投下時、市内で被爆したものの、現在でも使用されている路面電車に乗車し、連合広島青年委員会のガイダンスを受けながら市内の被爆地を車窓から視察しました。夕方は、連合主催の「平和ヒロシマ集会」に参加し、被爆体験証言などを聞きました。最終日(8月6日)、広島市主催の平和記念式典は、入場制限がかかったものの平和記念公園で立ち合い、8時15分に犠牲になられた多くの方に黙祷を捧げました。

1945年8月6日に落とされた1発の原爆により、広島は一瞬にして焼野原となり、77年経った今もなお、被曝の後遺症に悩んでいる人もいます。私たちは、これまでの運動を継承し、戦争の実相を次世代へ語り継ぐとともに、平和を願うすべての力を結集し、政府や国際社会に対し核兵器廃絶を強く訴えていきます。



平和行動in長崎

8月8日(月)～10日(水)に「連合平和行動in長崎」が開催され、連合埼玉から10名が参加しました。8日は、連合主催(原水禁・KAKKIN共催)の「2022平和ナガサキ集会」に参加し、10歳で被爆した三瀬清一郎さんから、被爆時の様子のみならず、被爆後の生活についてもお聞きし、「平和は人類共有の世界遺産」というメッセージが心に響きました。また、「ウクライナ危機」後の核軍縮について報告を受けました。8月9日の「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」は入場制限がかかったものの、原爆落下中心公園において原爆投下時刻の11時02分に全員で黙とうを捧げました。午後からは「長崎原爆資料館」の視察と、連合長崎青年委員会の皆さんより、被爆当時の遺品や石碑の説明を受けながら散策する「ピースウォーク」に参加、夕方からは万灯流しに参加し、各々の思いを書き込んだ万灯を浦上川沿い並べました。

77年前、原爆は一瞬にして多くの尊い命を奪い、その後も放射線による障害などにより、多くの人々の心と体に決して癒えることのない傷跡を残しました。制限はあったものの3年振りの参加となった平和行動は、核兵器という非人道的兵器の廃絶と世界平和にむけた運動継続の重要性を再認識させてくれました。

私たちはしっかりと平和の尊さを周囲の人々に訴えていきます。



日程		in 広島	参加者
1日目(8/4)	<p>■ピースウォーク①</p> <p>時間 15:30~18:00</p> <p>会場 てつのおくら館、大和ミュージアム</p>		<p>齊藤 雅輝 (川越・西入間地域協議会/JP労組川越支部)</p> <p>石田 進 (西部第四地域協議会/八千代工業労働組合柏原支部)</p> <p>河野 智 (比企地域協議会/三井精機労働組合)</p> <p>齊藤 輝光 (東部地域協議会/久喜市職労働組合)</p> <p>長 大樹 (北埼玉地域協議会/東邦車輜労働組合)</p> <p>曾田 友樹 (連合埼玉青年委員会/埼玉ダイハツ労働組合)</p> <p>野村 久美 (連合埼玉女性委員会/NTT労働組合北関東信越総支部)</p> <p>小穴真一郎 (連合埼玉副事務局長)</p>
2日目(8/5)	<p>■ピースウォーク②</p> <p>時間 9:30~12:00</p> <p>会場 本川町小学校平和資料館、平和公園 平和記念資料館</p> <p>■被爆路面電車乗車学習会</p> <p>時間 13:00~15:00</p> <p>会場 広島駅~広島港~原爆ドーム前</p> <p>■連合2022平和ヒロシマ集会</p> <p>時間 16:00~18:00</p> <p>会場 広島産業会館西展示館</p>		
3日目(8/6)	<p>■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」(広島市主催)</p> <p>時間 8:00~</p> <p>会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前</p>		

①平和行動に参加したのは何回目ですか？

②感想

①初めて

②参加して感じたのは、戦争の傷跡は遺ることです。2日目の平和記念資料館を訪れた際、瓦礫となった街の風景だけではなく、投下直後の被爆者の写真がたくさん載せられており、見るに耐え難いおぞましさを覚えました。また、原爆後遺症や海自の掃海資料から、負のレガシーは後世まで続くと思いました。穏やかで自然豊かな瀬戸内海から平和の良さを実感しました。



齊藤雅輝

①初めて

②平和ヒロシマ集会で被爆者の体験談を初めて聞かせていただきました。お話ししていただいた切明さんは77年前の出来事を昨日のこのように話しておられ、原爆の悲惨さ、恐ろしさを伝えていただきました。特に印象に残ったのは、原爆で壊れた建物や遺体そのまま埋め立てられ、その上に出来たのが今の広島の街であり、今建っているビルが切明さんには墓標に見えたとおっしゃられたことです。原爆投下から77年が経ち被爆者の高齢化が進む中、原爆によってもたらされた悲劇を少しでも多くの方に伝えて行くことが核戦争勃発の可能性を低減させることに繋がると思います。



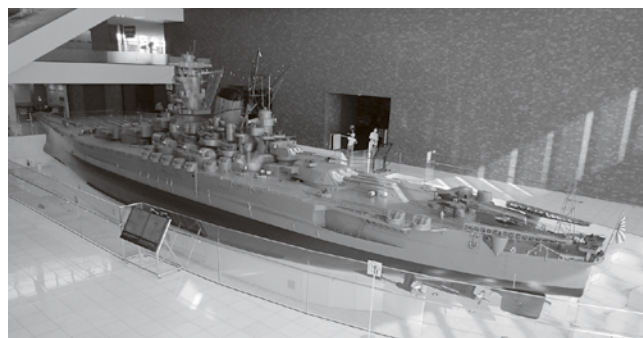
石田進

①初めて

②今まで学校教育、ニュース報道、被爆当時を直接知る祖父母からの話でしか、被爆の歴史に触れることがなかったので、今回実際に被爆地に訪れて、資料館、被爆体験証言にて歴史に触れることができ、良い経験となりました。被爆者家族にとっては辛く、思い出したくない暗い歴史ではあることには変わりありませんが、被爆からの復興の歴史でもあり、阪神・淡路大震災、東日本大震災からの復興にも脈々と受け継がれている日本の底力のような明るい一面も感じられました。私自身、二児の父親として子供達に戦争の暗い面だけでなく、明るい面も伝えていければと思いました。



河野智



大和ミュージアム



折り鶴献納



被爆路面電車乗車学習会

①3回目

②被爆し壊滅的な状態の広島電鉄が区間運転とはいえ、被爆3日後に早くも運行が再開されたと聞きました。被災者の想像を絶する努力に敬意を払いたかったです。復興をあきらめずに続けられたのは路面電車運転という、目に見える復興状況が被災者への勇気づけにつながり、日本人の底力が出たのだと思いました。悲惨な事の再確認というイメージの「平和行動in広島」であったが、当時の頑張りを見ることができて感動し、ぜひ後輩にも学んでもらいたい気持ちになりました。



齊藤輝光

①初めて

②原爆ドームや被爆した建物や乗り物を実際に拝見することができ、被爆地広島まで足を運ぶことによって、改めて戦争の悲惨さや、原爆の恐ろしさを肌で感じ取ることができ、とても貴重な体験をすることができました。また、被爆体験者証言では実際被爆された方の話を直接聞くことができ、二度とこのような恐ろしい惨劇を繰り返してはいけないと改めて認識しました。今年で被爆77年目に入り、年を召しつつある被爆者の声を自分たち世代がこうした体験をもとに次世代へ伝えていかななくてはならないと強く思いました。



長大樹

①初めて

②広島のかいれいな街に行む原爆ドームのいたましさを目の当たりにして、戦争の恐ろしさや悲しさについて再認識させられました。特に記憶に残っているのが実際に原爆被害に遭われた切明千枝子さんのお話です。満州事変から終戦にいたるまで当時の生々しい話は、平和な時代に生まれた私にとっては想像を絶するものでした。戦争を知らない私達が過去の過ちを繰り返さないように、戦争や原爆の被害に遭われた方々の生の声をもっと世に伝えていくべきだと強く感じました。今ある平和に感謝しつつ1日1日を大切に生きてまいります。



曾田友樹



平和記念資料館



平和記念式典会場



本川小学校平和資料館

①初めて

②「行ってきます」という日常を一瞬で壊した「原爆」核兵器、戦争の怖さを知った「はだしのゲン」を思い出しながらピースウォークや被爆路面電車乗車学習会に参加し、原爆投下は人道的に決して許される行為ではないと強く思いました。平和ヒロシマ集会で語られた被爆者の訴えは、特に胸に響き、被爆国の国民として核兵器廃絶を訴え続けなければならないと思いを改めました。折り鶴献納の場所に立ち、次代に「ヒロシマ」を語り継ぐ事が大切なのだと実感しました。



野村久美



平和ヒロシマ集会

日程		in 長崎	参加者
1日目(8/8)	<p>■連合2022平和ナガサキ集会 時間 15:30~17:30 会場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ</p>		<p>瀬谷 鮎太 (電機連合/GSユアサインフラシステムズ労働組合) 伊地知康治 (JAM埼玉/シチズン労働組合埼玉支部) 森糸 修 (運輸労連/ヤマト運輸労働組合東松山支部)</p>
2日目(8/9)	<p>■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 時間 10:30~11:45 会場 長崎市平和公園</p> <p>■ピースウォーク 時間 14:00~16:30 会場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園</p> <p>■万灯流し 時間 19:00~20:00 会場 市営陸上競技場 (原爆殉難者慰霊奉賛会主催・連合協賛)</p>		<p>堀江 亮馬 (さいたま市地域協議会/東京電力労働組合さいたま支部) 安東 卓也 (県央地域協議会/富士電機労働組合吹上支部) 清水 貴夫 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/日立金属労働組合熊谷支部) 浅見 健 (秩父地域協議会/秩父富士労働組合) 丹羽 宝宏 (連合埼玉青年委員会/UAゼンセン埼玉県支部) 春田 菊枝 (連合埼玉女性委員会/ヤマト運輸労働組合東松山支部) 酒井 勉 (連合埼玉副事務局長)</p>

①初めて

②平和ナガサキ集会の被爆者の訴えは非常に印象に残りました。戦争が終わったとき、夜は寝る昼間は学校で勉強や友達と遊ぶといった日常に戻れるので"うれしい感情だった"ということを知り、当時はそれすらもできなかったことを思うと、平和=日常なんだと感じました。戦争は区別無く全てを巻き込み無にします。限定的で済むことではないと身に沁みました。再び戦争の惨禍を起こさぬよう、平和行動に参加することは微力かもしれませんが無力ではありません。個人の意識の塗り替えはもちろん、僅かでも来賓や組織の代表に目に見える形で見えることは平和維持に繋がると感じました。私が生きている間に戦争を経験した証人はいなくなります。将来も平和は普遍であり続け、世代を超えて受け継がれたいものです。



瀬谷 鮎太

①初めて

②40年ぶり高校の修学旅行以来2度目の長崎で当時とは価値観も違う、平和と感じている現在の日本、昭和はどんどん遠くなり77年前のいきなり落とされた1つの爆弾を忘れてはいけない。平和ナガサキ集会、高校生大使からのメッセージ「ピリョクだけどもリョクじゃない」大切にしたいメッセージだ。原爆資料館での被爆により亡くなられた方の写真や皮膚が爛れ治療をしている方々の写真など衝撃を受けた、今この瞬間も世界のどこかで子供たち、女性たち、一般市民が殺されている。戦後77年と言う年を迎え、長崎でこの世と思えない惨状を改めて心に刻むとともに、次代を担う子供たちのために世界の恒久平和と核廃絶、核兵器をなくす事が未来を守る事だと認識した平和行動でした。



森糸 修

①初めて

②当日は大変な猛暑でしたが、ピースウォーク等で献身的な連合長崎スタッフに教えて頂いた核爆発の恐ろしさは額の汗を拭く事をためらうほど凄絶なものでした。長崎原爆資料館では原爆投下の理由付けや背景も展示していましたが、その中で原子爆弾投下は実験的な目的もあったとありました。憤りと怒りを強く感じました。平和ナガサキ集会では「被爆者の訴え」を直接お聞きしましたが、その中で「原爆が投下された街は、この世と思えない惨状でまさに地獄であった」と表現していました。77年前に実際に原爆投下を決断した指導者は、これを理解していたのか、飛行機で実際に投下した者は理解していたのか、結局、戦争は人間をおかしくする。現在はネットで瞬時に情報収集ができますが、それだけでは伝わってこないものが、実際の現地では感じる事ができました。戦争は絶対におこしてはならない。自分も平和の尊さと戦争の悲惨さを周りに確り伝えて行こうと思います。



伊地知康治

①初めて

②平和行動に参加して、被災地のみなさんの平和への願い、核兵器廃絶への思いを痛切に実感しました。被爆から77年経ち、被爆体験者が減少していく中、高校生平和大使達の「ピリョクだけどもリョクじゃない!」という平和への行動力を表す力強い言葉からは、伝承していかなければいけないという強い思いを感じられると共に、私にも何かできることがあるのではないかと考えさせられました。被爆者の三瀬さんがおっしゃっていた「平和は人類共有の世界遺産」という言葉に感銘を受け、ウクライナで起きている軍事侵攻の終結を願ってやみません。



堀江 亮馬

①初めて

②世界ではロシアによるウクライナ軍事侵攻が開始され、ロシアの核兵器保有と使用を示唆する発言により世界の平和が脅かされている。現在、世界には約1万3千発の核兵器が存在し、その威力は長崎の原爆の3000倍以上とも言われている。77年前、長崎に一発の原子爆弾が投下され、熱線・爆風・放射線により一瞬にして7万4千人余りの尊い命が奪われ、今もなお多くの被爆者の方々が苦しんでいる現実を見聞きし、改めて核兵器の根絶と恒久平和に向けて凄惨な現実を風化させないよう、身近なところから伝えていかなければならないと感じた平和行動となった。



安東 卓也

①2回目

②関東では連日熱中症アラートが発令される中、少しでも暑さから逃れられるのでは？という希望的観測を抱いて長崎に飛び立ちましたが、「長崎も暑かった」。それが第一の感想です。被爆77年連合2022平和ナガサキ集会では1,115名の働く仲間が全国から結集し、連合という組織の大きさと偉大さを改めて実感することができました。式典では、長崎市長より「長崎を最後の被爆地に」というメッセージがあり、今世界で起こっていることがどれだけ危険な状態にあるのか、第二・第三の被爆国を出さないためにも私たち自らが核兵器廃絶を世界に発していかなければならないと思いました。



清水貴夫

①2回目

②以前、一度沖縄の平和行動に参加したことがありましたが被爆地である長崎の平和行動は初めてでした。長崎に原爆が投下されてから77年目を迎え、今尚、被爆者の方々は心身ともに苦しめられている実情に触れ、改めて恒久平和への意識を強く持ちました。現在、ウクライナでは同じような戦渦に市民が巻き込まれている状況にあり、一日も早い終息を願うばかりです。私たちの心に一番響いてくるのは、やはり被爆者の方々の訴えだと思っています。いま、被爆者の平均年齢は84.53歳になったそうです。今後も絶えず語り継いでいくために、その役割の担い手が非常に重要だと思います。連合としての活動はもちろん、「ユース代表団」や「高校生平和大使」などの活動との連携も含め、『平和』について世代を超えて、学び考える環境が大切だと改めて感じました。



浅見健

①初めて

②長崎に原爆が投下されて、今年で77回目を迎える事になりました。当時の状況を知る人が年々減少しているという事実を改めて実感致しました。広島・長崎の原爆投下は、よく耳に致します。しかし、実際に足を運んで当時の状況を聞くのは初めての経験でした。当事者から直接聞く事により、平和の尊さを改めて実感致しました。今もなお世界では「紛争」が絶え間なく起こっています。今回の平和行動を通じて、武力での解決ではない方法を願うと共に、この様な悲惨な出来事が2度と起こらない事を祈って参加致しました。



丹羽宝宏

①初めて

②平和行動に参加させていただき体験者のかたの話を聞き、写真や映像等を見る事により改めて平和について考えなおす良い機会になりました。体験者のかたの「ゆっくり寝たかった」という言葉を聞いた時は、今ある日常が当たり前ではなかった時代があったのだと思い、胸が締めつけられる思いでした。また、核兵器の恐ろしさを目の当たりにし核兵器廃滅・恒久平和について職場・家族・友人など1人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。



春田菊枝



折り鶴献納



万灯に思いを込めて



平和祈念像

フリーランスのための!

ワーク **Wor-Q 共済**

お申込み・詳細はこちらから

Wor-Q共済

Wor-Q共済（基本共済）の特徴

- 年齢・性別に関係なく同一掛金
年会費 **3,000円** (1日約8円)
- 満18歳～満64歳までご加入可能
- 健康状態に関わらずご加入可能

こんなときに共済金をお支払いします

- ・死亡
- ・重度障がい
- ・入院
- ・住宅災害

オプション

団体生命共済

総合医療共済

賠償補償制度

所得補償制度

Wor-Q共済の利用のためには、Wor-Qライフサポートクラブへの入会が必要です。Wor-Qライフサポートクラブはフリーランスのための福利厚生を目的とした会員制度です。年会費は3,000円でWor-Q共済の基本共済が無料でついています。

31円の引き上げが答申されました

令和4年度埼玉県最低賃金の改正決定について

埼玉地方最低賃金審議会は、本年7月1日に埼玉労働局長から「埼玉県最低賃金の改正決定について」の諮問を受け、埼玉県最低賃金専門部会を設置し、調査審議をおこなってきました。今年の審議会では、8月2日(火)に中央最低賃金審議会より示された「令和4年度地域別最低賃金改定の目安に関する公益委員見解」などを踏まえ、公労使での真摯かつ慎重な審議の結果、8月5日(金)に埼玉労働局長に対し、埼玉県最低賃金額を31円引き上げとなる「時間額987円」とする旨の答申をおこないました。

今回の31円引き上げについては、上昇率が3.24となり、過去最大の引き上げ額となりました。

今後、諸手続きを経て本年10月1日より効力を発生する予定となっています。

また、8月3日の審議会では、労働側から申出をおこなった5業種(非鉄、電子部品、輸送用機械器具、光学機械器具、自動車小売)の必要性有りが答申されましたので、9月に5業種の特定(産業別)最低賃金の審議がおこなわれます。

【参考:埼玉県最低賃金額及び対前年度上昇率・上昇額】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
時間額	928円	956円	987円
対前年度上昇額	2円	28円	31円
対前年度上昇率	0.22%	3.02%	3.24%

「企業内未組織労働者の組織化」について学ぶ

オルガナイザー研修会(実践)

連合埼玉は「20万連合埼玉」の目標達成に向け、組織拡大の取り組みを強化しています。そこで連合埼玉では、5月の「組織拡大推進者連絡会」、「オルガナイザー研修会(養成講座)」に引き続き7月22日(金)ときわ会館にて「オルガナイザー研修会(実践)」を開催しました。

現下の新型コロナウイルス感染症のまん延状況より、昨年に引き続き企業訪問は控え、連合本部が実施している「地方連合会オルガナイザー研修会」のカリキュラムを発展させた「企業内未組織労働者の組織化」についてロールプレイングを交えて学びました。

冒頭、山田中央オルガナイザーから、「企業内未組織労働者の組織化」について講義があり、組織化の極意は、テレビショッピングと同じで、「組織化の相手に対し有益な情報をいかに的確に提供するか」が



山田中央オルガナイザー



連合本部組織拡大局 石川局長



ロールプレイングの様子

ポイントと解説があり、参加者からは「分かりやすく、理解しやすい内容であった」と好評でした。

その後「加盟組合の委員長から『企業内未組織労働者の組織化について会社を説得して欲しい』と依頼を受け、人事部長と面談することになった」という設定でロールプレイングをおこないました。受講生からは「日頃そういった活動をしていなかったので非常に悪戦苦闘いたしました」「新たな労組を作ることは大変重要ですが、現状の労組は組織人員が減少していて組織防衛から現組織の組織拡大は重要」などの感想をいただきました。

現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	木	
2日	金	①特定(産業別)最低賃金検討会議(10:00～・あけぼのビル) ②第3回地協議長・事務局長会議(ときわ会館) ③2022青年交流会(13:00～ 9/3 12:00・さいたま市民会館おおみや)
3日	土	災害ボランティア救援隊員研修会(13:00～・防災学習センター) 埼玉県電力総連「定時大会」(14:00～・ときわ会館)
4日	日	
5日	月	
6日	火	第10回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館) ①こくみん共済coop事業報告会(16:00～・ときわ会館) ②滑川町長選挙告示日
7日	水	埼玉労働局「第1回特定最賃合同専門部会」(14:00～・埼玉労働局)
8日	木	
9日	金	①メンタルヘルス研修会(基礎編)(13:30～・あけぼのビル) ②平和行動in根室(～11日)
10日	土	電機連合埼玉「第6回定期大会」(14:00～)
11日	日	滑川町長選挙投票日
12日	月	
13日	火	秩父地域協議会「第10回幹事会」(18:00～・秩父勤労者福祉センター)
14日	水	①特定(産業別)最低賃金「光学機械売第2回専門部会」(9:30～・埼玉労働局) ②連合「第4回地方連合会・地域協議会会計管理研修会」(10:00～・Zoom) ③連合「第2回春季生活闘争勉強会」(13:00～・Zoom) ④埼玉労福協「第3回代表者会議」(13:30～・ときわ会館) ⑤埼玉労福協「第3回政策制度会議」(15:00～・ときわ会館)
15日	木	第30回チャリティーゴルフ大会(おおむらさきゴルフ倶楽部)
16日	金	西部第四地域協議会「幹事会」
17日	土	
18日	日	
19日	月	
20日	火	埼玉県知事への政策・制度要請(10:00～・知事室) ①特定(産業別)最低賃金「非鉄金属第2回専門部会」(9:30～・埼玉労働局) ②朝霞・東入間地域協議会「第4回幹事会」
21日	水	①特定(産業別)最低賃金「自動車小売第2回専門部会」(10:30～・埼玉労働局) ②県地域協議会「第8回幹事会」(18:30～・東武ホテル) ③電機連合「第27回チャリティーゴルフ大会」(東松山カントリークラブ)
22日	木	第5回連帯活動委員会(15:30～・あけぼのビル) 中央労金「営業推進会議」(10:00～・中央労金本部)
23日	金	
24日	土	比企地域協議会「第5回幹事会」「政策制度研修会」(13:15～)
25日	日	
26日	月	第3回拡大アドバイザー会議(14:00～・あけぼのビル)
27日	火	①第3回組合役員教育プログラム運営委員会(10:00～・あけぼのビル) ②女性委員会「女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)」(13:30～・埼玉会館ラウンジ) 特定(産業別)最低賃金「輸送用機械第2回専門部会」(10:30～・埼玉労働局)
28日	水	①第6回政策・制度委員会(10:00～・あけぼのビル) ②第2回組織委員会(13:30～・あけぼのビル) 川越・西入間地域協議会「四役会」(18:30～・ネット21川越)
29日	木	特定(産業別)最低賃金「電子部品第2回専門部会」(10:30～・埼玉労働局)
30日	金	①最低賃金周知活動(8:30～・大宮駅西口デッキ、熊谷駅) ②連合関東ブロック「政策フォーラム」(15:30～・ホテルニューイタヤ)

労使トラブル 円満な解決のお手伝いします

労働委員会事務局

「解雇・雇止め」「労働条件の見直し」「パワハラ」など労働者と会社のトラブルでお困りのことはありませんか？埼玉県労働委員会が、中立・構成的な立場で、あっせんをおこない、トラブル解決をお手伝いします。

連合埼玉からは、5名の労働者委員のうち4名の役員派遣をしており、現在も活躍していただいています。

〈例えば〉

- 突然解雇されたが、理由が曖昧で納得できない。
 - これまで1年契約で何回も更新してきたが、突然雇い止めされた。
 - 何の説明もなしに、時給を大幅に引き下げられた。
 - 配転命令を受けたが、理由が納得できない。
 - 上司からパワハラやセクハラを受け、精神的につらくなり仕事が手につかない。
 - 社員から高額な退職金の上乗せを求められて困っている。
- ※裁判で係争中など、制度をご利用になれない場合があります。

手続きは簡単・無料、秘密厳守です。どうぞご利用ください。

問い合わせ 埼玉県労働委員会事務局 048-830-6452



<防災月間>

9月1日は「防災の日」、月全体は「防災月間」です。1927年に関東大震災が起こったこと、9月は災害が多いことから、「災害に備えつつ知識を深めるため」に制定されました。

今年度も全国各地で災害が発生している中、埼玉県でも、6月に発生した降ひょう被害は特別災害指定にもなる被害となりました。

これから、台風シーズンを迎え、私たちの防災意識を確認する意味でも、防災月間をつうじて、予期せぬ災害と防災を考えてみたいと思います。

<災害>

災害については、一般的に「天災や事故などによって人命や社会に被害を及ぼすこと」であり、大きく「自然災害」と「人為災害」の2種類あるとされています。

中でも、天災といわれる「自然災害」について考えてみると、「天災は忘れた頃にやってくる。」という有名な言葉があります。

この「忘れた頃」ということは、「私たちは、なぜ災害を忘れてしまうのか？」という問いでもあるとされています。現代の気象予報や地震情報など「予測技術」も進んでいます。

しかし、「未曾有の災害」、「想定外の事態」、「観測史上初」などの報道がされている現状を見ると、例えば、この防潮堤や堤防の高さで十分と思っていたはずが、想定外の高さとなり、過信も含め大きな災害となるケースもあります。

このような現状を考えると「予測技術」の発展は必要不可欠ではあるものの、過去の「災害」を「忘れる」ことのないように、「防災」として活かし、未来につなぐことが重要になります。

<防災>

「防災」は、「命と暮らしを守る」ことを第一義に考えます。しかしながら、大規模災害などから完全に防ぐことは難しく、少しでも被害を最小限に、そして人命をより多く守ることにつながる「減災」という対策が考えられています。

例えば、家屋やインフラなどに対する被害の軽減や社会経済活動の維持、住民による適切な避難行動、そのために必要な防災情報の提供、災害発生後の迅速な人命救助、そして災害関連死を生まないための避難所の環境改善など、かけがえのない命を災害から守ることが重要となります。

そして、もう1つ防災で重要な視点なのが防災対策の三助「公助、共助、自助」になります。まずは、国や自治体などでおこなう災害予防・事前準備、災害応急対策、災害復旧・復興という「公助」の災害対策もあります。しかし、実際の災害時には、公助の限界についての懸念も指摘されており、

実際、阪神・淡路大震災では、7割弱が家族も含む「自助」、3割が隣人などの「共助」により救出されています。

したがって、地域の自治会、職場での消防隊など、地域の人達や地域団体、事業者が助け合って守る「共助」や、家具の固定や耐震シートの貼付けの転倒防止や、もしもの際の防災バッグなどを準備、こくみん共済coopの「住まいる共済」などの保障など、日頃からの備えの「自助」が重要となっています。

<つなぐ>

東日本大震災の時、多くの命を救った三陸地方に伝わる言葉で「てんでんこ(=各自、めいめいの意味)」という言葉があります。過去にいくども甚大な津波被害に遭ってきた「歴史」の中で、地震が起きたら取るものもとらず、各自でんでんばらばらに高台に逃げることで、結果として全員が助かるというという意味が含まれています。

また、津波石碑(ここまで津波が来たと記した石碑)など、災害の様子や被害の状況などが記されている自然災害伝承碑もあります。

環境が変化し、自然災害も変化している中で、「忘れた頃にやってくる」災害を、「てんでんこ」や「津波石碑」のように、今を生きている者へつなぎ、「命と暮らしを守る」ために、未来へ語りついでいくことが重要なのだと思います。



秩父ジオグラフィティパークのつり橋

<ジオパーク秩父>

埼玉県の秩父地域に「ジオパーク秩父」があります。「ジオパーク」は、「地球・大地(ジオ)」と「公園(パーク)」とを組み合わせた造語ですが、秩父地域(1市4町)全体が「ジオパーク秩父」として認定されています。地形や地質などの視点から豊かな自然と、人々の歴史、文化、産業を学ぶことで、その土地を深く知り、楽しむ場所が多く点在しています。

その中で、自然に育まれた地形を生かして、秩父の大地を体感できるアクティビティがあります。

これからの秋の行楽シーズンに向けて、ご家族やご友人と高さ約50m、幅約100mの荒川渓谷の上空で、スリル満点のジオパーク秩父の眺望サイトを全く新しい目線で眺めてみるのもお勧めです。

新型コロナウイルス感染症の影響から、外出が少なくなっている中で、自然との共生を感じることが出来る場所として、「ジオパーク秩父」に足を運んでみるのも良いのではないのでしょうか。

2022.8.18